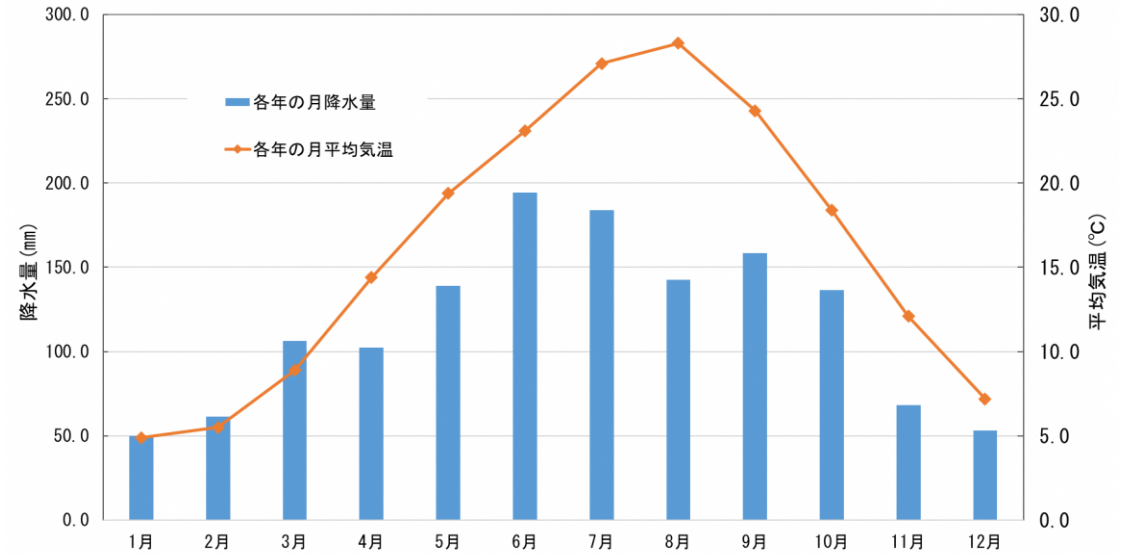


## 枚方市の地域特性

### 1. 自然特性について

#### (1) 気候

本市の気候は瀬戸内気候区に属し、日照も多く比較的温暖で穏やかな気候を示しています。1991（平成3）年から2020（令和2）年までの30年間の平均気温は、1月の4.9℃が最低で、8月の28.3℃が最高となっています。また、降水量は、1月の49.8mmが最も少なく、6月の194.2mmが最も多くなっています。



出典：気象庁の気象データを基に作成

図1 平均気温と降水量（枚方観測所における1991～2020年の平年値）

#### (2) 気候変動の影響

市内の平均気温は上昇傾向にあり、猛暑日（日最高気温が35℃以上の日）の日数も、1990年代以降増加傾向にあります。

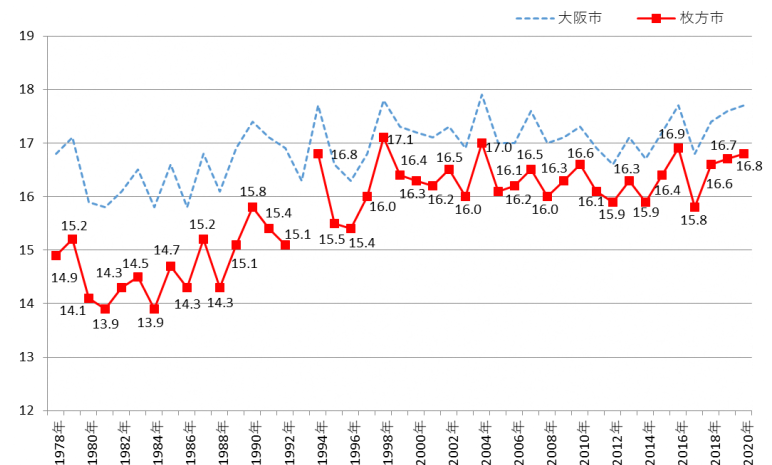
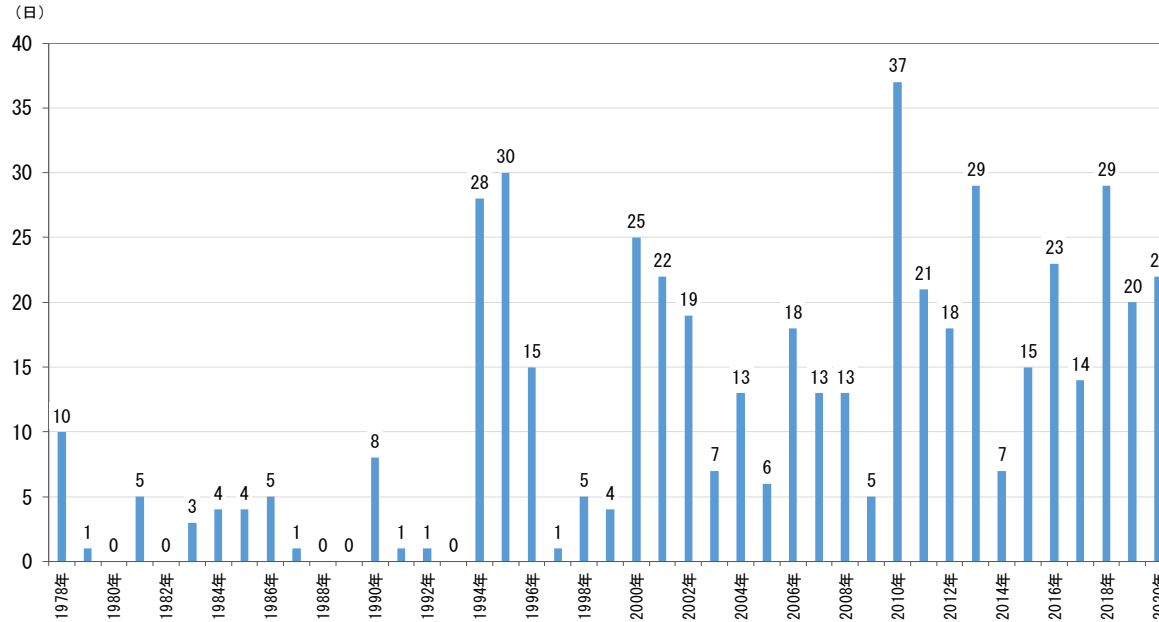


図2 平均気温の推移

※1993年は測定地点移設のため欠測



出典：気象庁の気象データを基に作成

図3 猛暑日（日最高気温が35°C以上の日）の推移

表1 過去上位1位～10位までの雨量の観測記録（枚方観測所）

また、近年、局地的な大雨が頻発しており、2012年8月14日には、アメダスの枚方観測所において、1時間最大雨量 91.0ミリを観測し、床上・床下浸水が多数発生しました。

年月日	1時間最大雨量(mm)	年月日	10分間最大雨量(mm)
2012年8月14日	91.0	2012年8月14日	23.0
2008年8月6日	71.5	2013年9月3日	19.5
1995年8月30日	63.0	2017年9月12日	17.5
2013年9月16日	58.5	2016年6月23日	17.5
1982年8月9日	54.0	2012年9月3日	17.5
1988年9月11日	51.0	2012年8月23日	17.5
2013年8月23日	50.5	2020年7月8日	17.0
2013年9月15日	50.0	2013年7月14日	17.0
2003年5月8日	49.0	2017年8月6日	16.5
1983年8月21日	48.0	2013年8月23日	16.5

## 2. 社会経済特性について

### (1) 人口と世帯数

本市の人口は2020（令和2）年現在において401,074人、世帯数は181,062世帯です。人口は2012（平成24）年度の409,964人をピークとして、緩やかな減少傾向に転じています。一方、世帯数は増加を続けており、2020（令和2）年は、181,062世帯となっています。また、1世帯あたりの人員数は、1990（平成2）年に3.03人だったものが、2020（令和2）年には2.31人と減少しています。

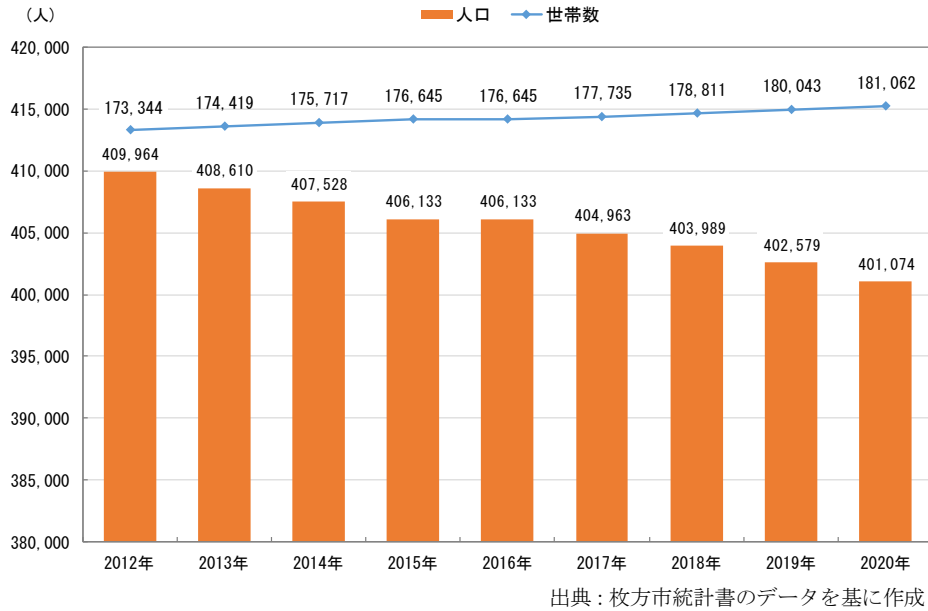


図4 人口の推移

年齢3区分別人口の推移を見ると年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）の減少が続いており、これに伴い老年人口（65歳以上）が増加する少子高齢化が進行しています。

出典：国勢調査、枚方市統計書のデータを基に作成

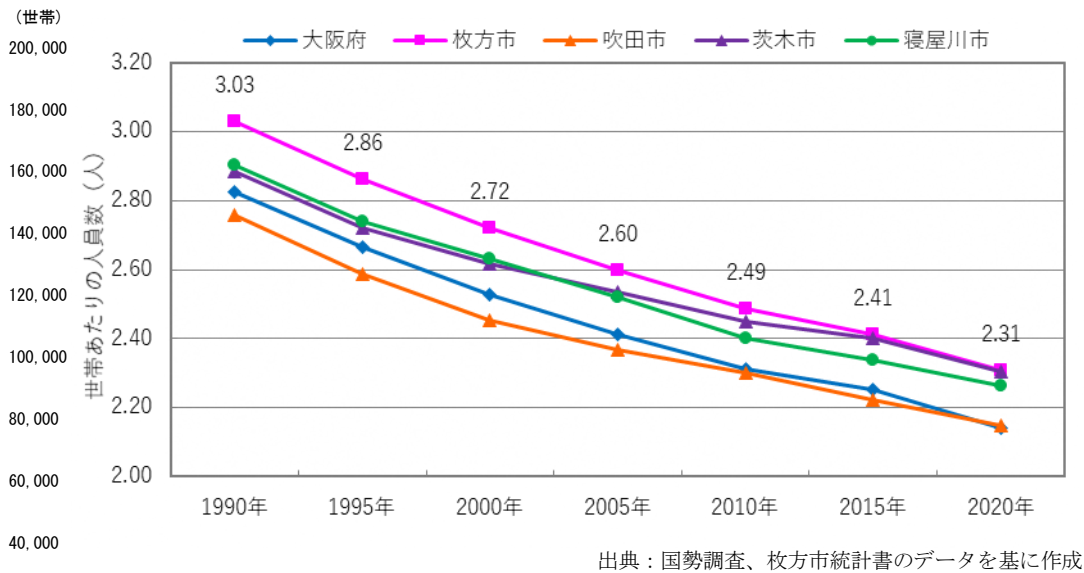


図5 世帯あたりの人員数の推移

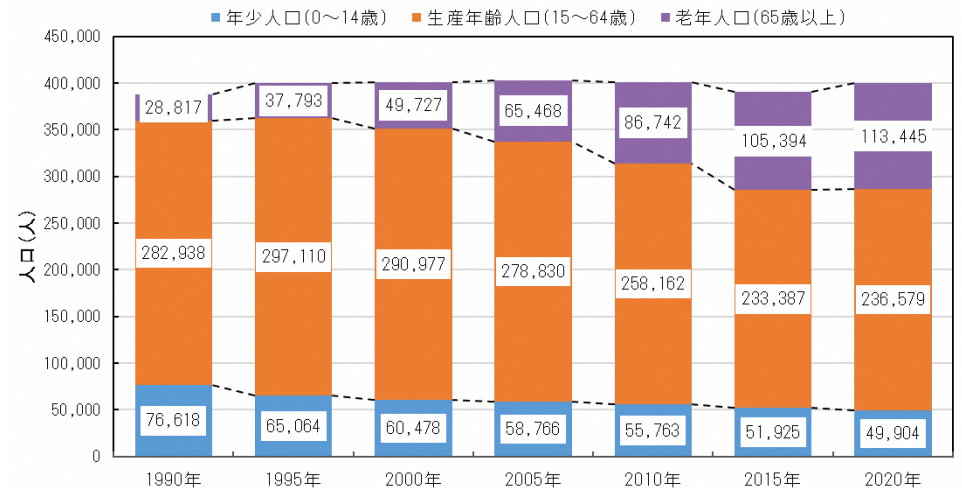


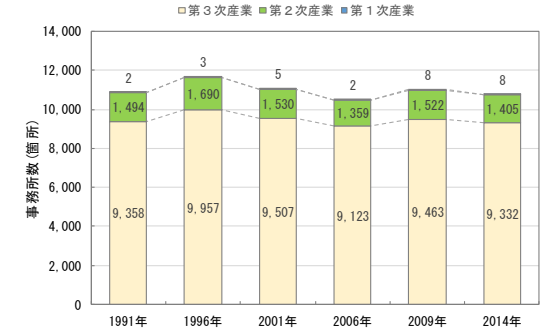
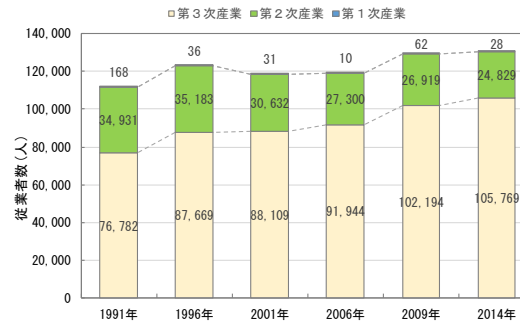
図6 年齢3区分別人口の推移

(2) 産業等

① 事業所数と従業者数の推移

本市の事業所数と従業者数の推移をみると、従業者数は年により増減はあるものの増加傾向にあります。第3次産業は小売業の占める割合が最も多く、従業者数は概ね増加傾向を示していますが、第1次産業、第2次産業とも減少しています。

一方、事業所数は2014（平成26）年において、10,745事業所あるものの、すべての産業において減少傾向にあります。



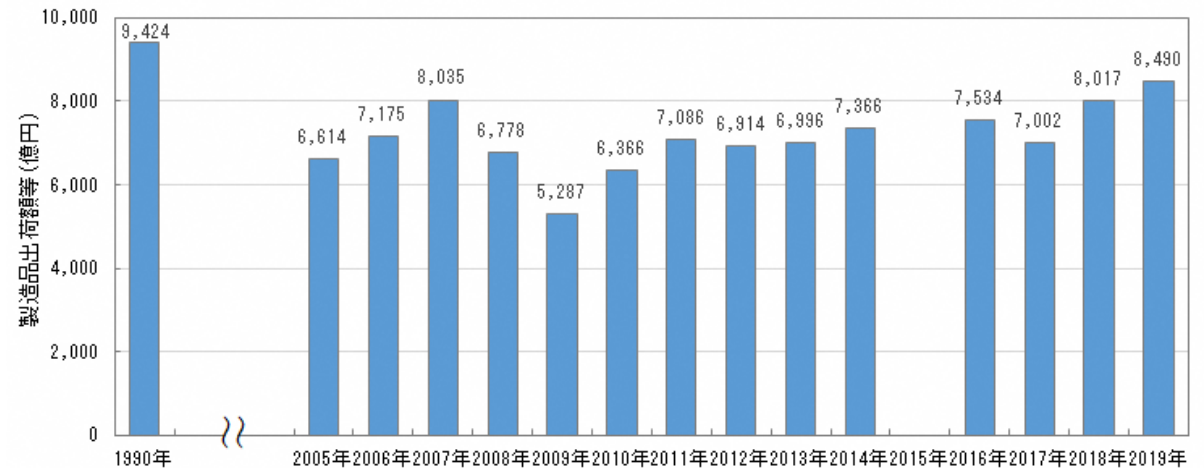
出典：枚方市統計書のデータを基に作成（2019年の結果は未公表）

図7 従業者数の推移

図8 事業所数の推移

② 製造品出荷額の推移

近年の製造品出荷額については、製造業等の事業者が減少傾向にあるものの、2007（平成19）年まで増加傾向にありましたが、この年を境に2008（平成20）年と2009（平成21）年は減少し、2010（平成22）年から増加に転じ、2019（令和元）年は8,490億円となっています。



出典：枚方市統計書のデータを基に作成

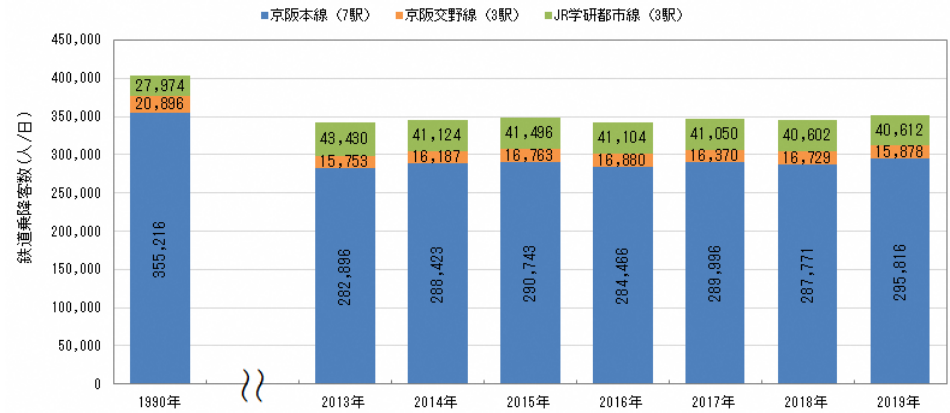
※2015年は基準日変更のため欠測

図9 製造品出荷額の推移

(3) 交通

①公共交通機関

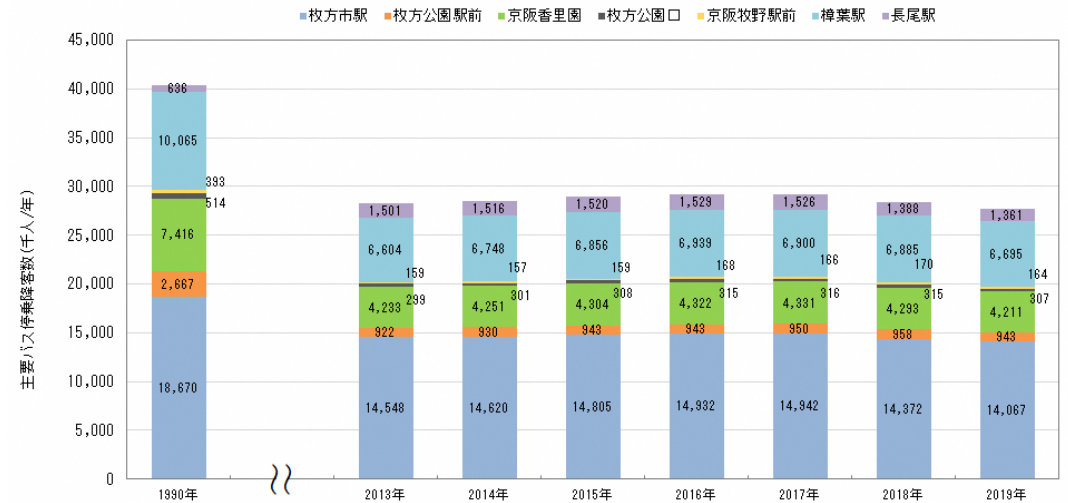
市域を通る鉄道は西端を淀川に沿うように京阪本線、東部の山沿いをJR学研都市線が通っています。また、これらの2線を結ぶように京阪交野線が天野川に沿って通っています。京阪本線の7駅で、2019（令和元）年における市域の乗降客数の約8割を占めています。



出典：枚方市統計書のデータを基に作成

図10 1日あたりの鉄道乗降客数の推移

路線バスは、市域の西端にある京阪本線各駅に向けて、東西方向の公共交通網を補完しています。主要なバス停のうち、2019（令和元）年において乗降客数が最も多い枚方市駅（年間14,067千人）は、隣接市の高槻市や茨木市からの路線もあり、市域の中心的ターミナルとなっています。次いで乗降客の多い樟葉駅（年間6,695千人）は、駅周辺を含め、事業所が集積した枚方企業団地・家具団地や、多くの住宅がある八幡市の男山団地周辺を結ぶ路線を持っています。

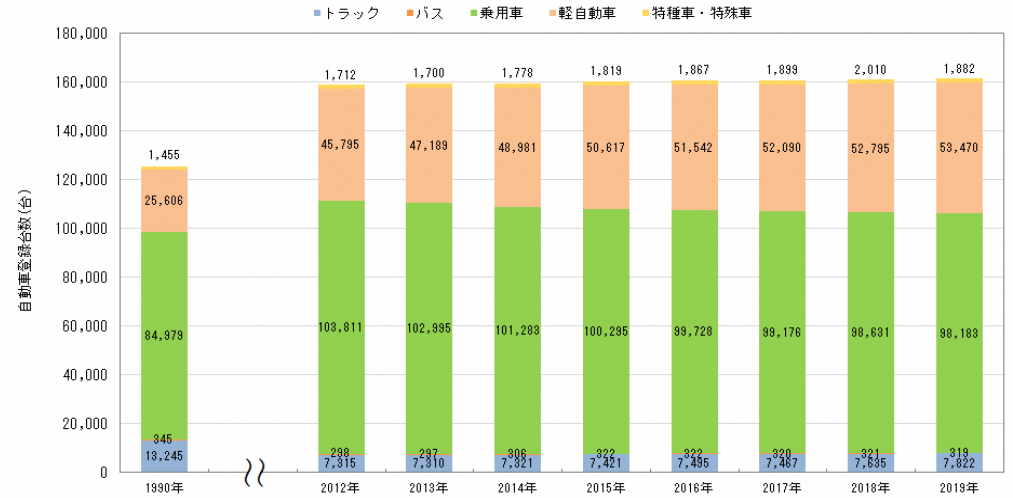


出典：枚方市統計書のデータを基に作成

図11 主要バス停における年間乗降客数の推移

②自動車登録台数の状況

市域における自動車登録台数のうち、1990（平成2）年度と2019（令和元）年度を比較すると、乗用車と軽自動車台数の増加が大きく、41,000台増加しています。車種別の登録台数で見ると、2013（平成25）年度以降、乗用車の登録台数は減少していますが、その他の自動車の登録台数は増加する傾向にあります。



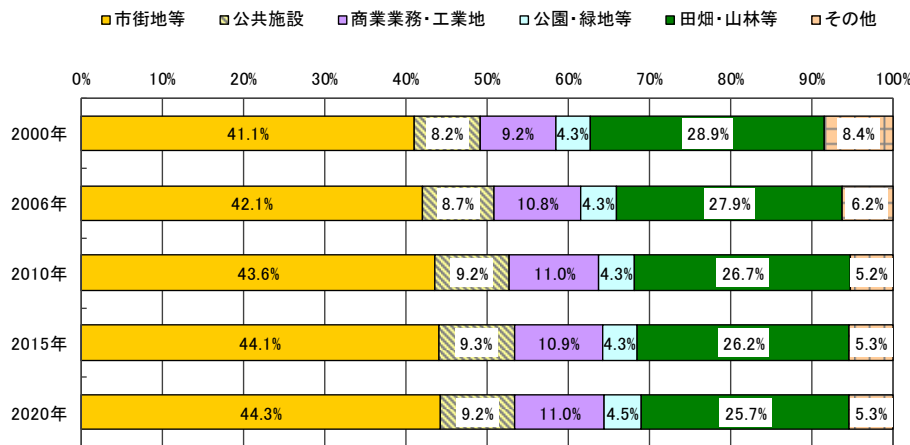
出典：枚方市統計書のデータを基に作成

図12 自動車登録台数の推移

(4) 土地利用動向

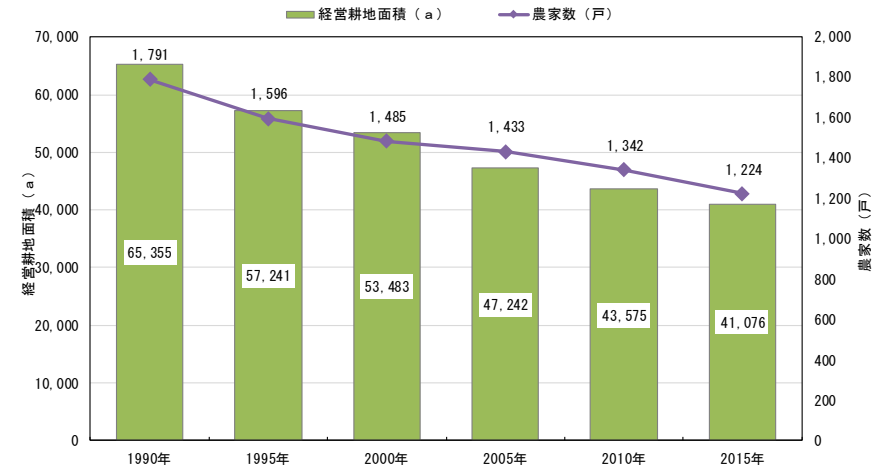
①土地利用の現況

2020（令和2）年の住宅地を含む市街地等は44.3%を占めており、2000（平成12）年から20年間で3.2%増加しています。一方、田畑・山林等については、3.2%減少しています。また、土地利用のうち、田畑に相当する経営耕地面積の推移をみると、2015（平成27）年の耕地面積は1990（平成2）年と比較して約37%減少し、農家数も567戸減少しています。市域の市街地等は市の中央部から以西に多く分布しています。商業業務の土地利用は駅周辺を中心に分布し、工業地の土地利用は幹線道路等に隣接して分布します。



出典：都市計画基礎調査のデータを基に作成

図13 土地利用の推移

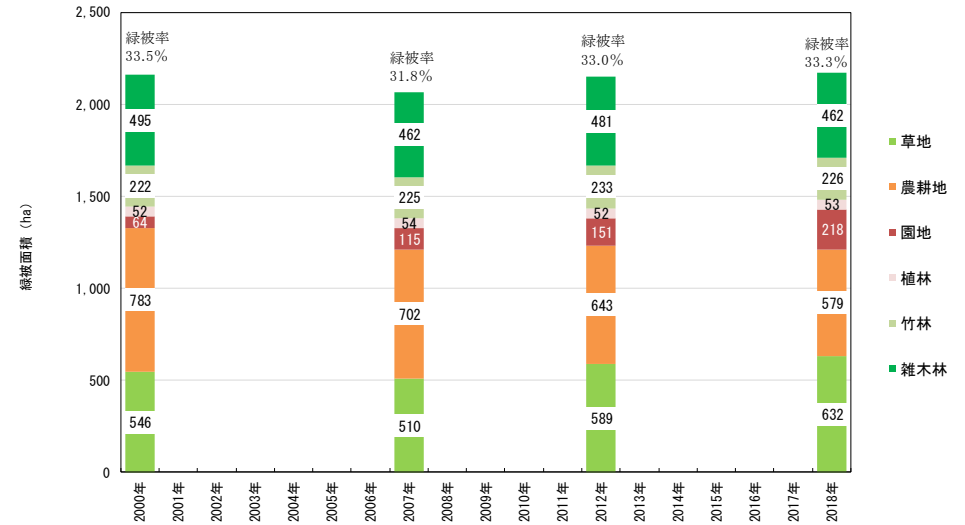


出典：枚方市統計書のデータを基に作成  
(2020年の結果は未公表)

図14 耕地面積等の推移

## ②緑被率の変化と緑被面積の推移

2018（平成30）年の市域における緑被率は33.3%となっており、2000（平成12）年の緑被率33.5%とほぼ変わりありませんでした。緑被面積のうち、市街地等の拡大により雑木林や農耕地は減少しましたが、逆に、草地は増加しています。



出典：枚方ふるさといきもの調査の調査結果を基に作成

図15 緑被率の変化と緑被面積の推移